



# 地域に密着した国際化事業： 土佐弁ミュージカル

(財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課

プログラム・コーディネーター マット・ダグラス (元高知県文化・国際課国際交流員)

## はじめに

JETプログラムは、地域の国際化への貢献を国内外で高く評価されています。高知では、JETプログラム参加者・地元のボランティア・地方自治体等の協力のもと、草の根レベルでの国際化事業を長年行ってきました。なかでも高知の独自の取り組みとして、「土佐弁ミュージカル」があります。

今年も4月に開催されますので、ここでミュージカルの背景と意義を紹介したいと思います。

## 日本と外国の懸け橋を目指して

JETプログラムの第1期生であるマイケル・カーン氏は、草の根レベルでの国際化を一層推進するために、1996年に「GENKI青年会」を立ち上げ、最初の事業として「土佐弁ミュージカル」を発足させました。その当時のミュージカルの題名は「ジョン万次郎のちょっと変わった物語」であり、おそらくアメリカの地に初めて降り立った日本人の1人である高知県出身のジョン万次郎の伝記を、ミュージカルという形で上演しました。ジョン万次郎は漁船の難破事故により海で遭難し、太平洋の無人島に漂着しましたが、アメリカの捕鯨船に救護された後はアメリカ東海岸に移送され、その後10年間にわたりアメリカで暮らしました。その後、鎖国時代の日本に帰国、外交官や通訳として活躍し、アメリカと日本の懸け橋になりました。カーン氏は、高知が誇る偉人ジョン万次郎は、国際交流に励むJETプログラム参加者にとって、見習うべき最適なお手本になると思いました。ジョン万次郎と同じように、JET参加者にも世界と日本を繋げる役割を担ってもらうのがカーン氏の夢でした。

## ミュージカルの概要

毎年新たにミュージカルの台本が作られますが、そこには必ず高知県ゆかりの歴史上の人物や有名人が登場します。そして高知県が舞台となる歴史物語に海外文学の物語を組み込んで、高知発の斬新な物語がこれまで14話誕生しました。例えば、2008年度のミュージカル「恋愛八策」は、坂本龍馬の妻おりょうの物語と、シェークスピア作の「から騒ぎ」を結合させ、ユーモア溢れるラブストーリーに仕上がりました。これは、日本文化と海外文化との調和と融合を象徴しており、地域発信型の国際化の試みとして素晴らしい例の一つだといえるでしょう。

台本はGENKI青年会のメンバーによって制作され、役者も全員高知県の在住外国人です。役者の多くはJETプログラム参加者ですが、近年、大学で学ぶ留学生や一般の外国出身の社会人も参加するようになりました。脚本を完璧な土佐弁にするため、そして役者の土佐弁の発音を修正するためには、地元ボランティアの協力も欠かせません。小道具・セッ

ト・衣装・メイクの手伝いにも、毎年多くのボランティアが大きな役割を果たしています。地元の日本人と在住外国人との緊密な協力関係が、土佐弁ミュージカ



2010年ミュージカルのために作曲されたオリジナルの歌を熱唱しているミシェル・クリカ氏 (写真：モニカ・ロイド (Monica Lloyd))



2010年ミュージカルの華やかなラスト・シーン  
(写真：モニカ・ロイド (Monica Lloyd))

ルの特徴だといえるでしょう。

ミュージカルは毎年4月中旬の第2週と第3週の土日に、県内およそ8カ所で上演され、主要都市だけではなく、できるだけ山間部を活性化するために、遠く離れた小さな農村や港町でも上演しています。2010年の合計観客数は約1千人を記録し、最近では高知県の春の恒例イベントとして定着してきました。

## ミュージカルの成果

多くの高知県民に喜んでいただくことはもちろんのこと、GENKI青年会のメンバーたちの、自分を受け入れてくれた地域社会にできるだけ貢献したいという恩返しの精神が印象に残ります。ミュージカルの入場料は無料ですが、ミュージカル終了後に会場で募金活動も行っています。集められたお金は、留学を希望する県内の中高生を援助するために役立てられています。これは次世代の国際的なリーダーを育成することをミュージカルの主要な目的の一つに設定しているからです。2010年までに、通算18名がGENKI青年会奨学金でアメリカ、イギリス、ニュージーランド、フィンランド、フランス等に留学することができました。

JET参加者は在留期限があるため、外国語・外国文化の指導は最長でも5年間に限定されますが、このミュージカルを通して、国際感覚を持つ若い土佐人を育成することで、その効果が何十年も続くと信じています。

## 自治体・地域社会等との協力

「地元自治体の協力なしには、ミュージカルを上演することはできません」とGENKI青年会代表のステープン・ユイン氏は言います。ユイン氏は高知県文化・国際課の国際交流員として活躍し、GENKI青年会の

代表もボランティアとして務めています。土佐弁ミュージカルは当初、草の根の国際協力ボランティア活動としてスタートしたため、ミュージカルの演出は本来は国際交流員の業務ではありません。しかし、これまでミュージカルを手がけるGENKI青年会の代表は、文化・国際課の歴代国際交流員が自発的に務めてきたという伝統があります。自治体での業務の傍ら、ボランティアでミュージカルの演出を手がける国際交流員ですが、自治体からの理解と協力、とりわけ文化・国際課の積極的なバックアップを得て、今やこのミュージカルは高知県の国際交流事業に欠かせないものへと成長しました。

高知県と高知市をはじめ、開催地の自治体もミュージカルを後援しています。後援を受けることにより、会場利用料も免除・減額されるなど、遠方の会場でも上演することが可能になります。また地元のテレビ局やラジオ局、高知県国際交流協会などからも後援を受け、ミュージカルは広く宣伝されています。地域を挙げて、日本人と在住外国人が協力するからこそ、ミュージカルを舞台とした国際交流が達成されるのでしょうか。

## おわりに

土佐弁ミュージカルは、地域型国際化事業として15年の実績を誇っています。在住外国人の役者と地元ボランティアが信頼関係を築き、友情を深め、ミュージカルを上演します。高知県民はそのミュージカルを毎年温かく見守っています。また、ミュージカルの台詞を通して役者である在住外国人の土佐弁の上達につながり、さらに地域社会に溶け込みやすくなります。

JETプログラムを活用しながら地方自治体やボランティアが協働し、「地域」と「海外」が触れ合える場へと発展した高知の事例は、国際交流に取り組む他地域にとって参考になると思われます。

### 2011年上演情報

2011年の演目は戦国時代に四国を制覇した長宗我部元親の話に基づいています。上演日は4月16(土)・17(日)・23(土)・24(日)。会場・募金等に関する問い合わせは genkiseinenkai@gmail.com まで。